

「地域と共に知り、地域と共に創る」の具現に向けて



高社山は いつも 皆さんを見守っています

高社小学校 中村仁志

「何を」共に知る？

1 「子ども読書活動」とは何か

2 「子ども読書活動」のねらいは何か

3 子どもたちの「読書活動」に関する現状

「何を」共に創る？

1 「子ども読書活動」に関する共通理解
(様々な分野の方と)

2 「子ども読書活動」を共に考え推進していく仲間

1 全職員で グランドデザインにおける図書館教育の位置づけを知る

令和3年度 高社小学校グランドデザイン

—学校教育目標—

広く 高く 豊かに

～ふるさととの山 高社山のように～

めざす児童の姿

ふるさとを基盤に社会とつながり、協働して自分と地域を創る児童

問題解決者を育てる

みんなでみんなを育てる

「私」を育てる

- 心を育てる
- ・「**道徳**」の積極的取組
- ・読書の充実、**図書館・家読**

2 全職員で 学校図書館基本計画を 知る

高社小学校 学校図書館全体計画

学校図書館教育目標 読書活動を推進し、豊かな人間性を培う

(読書センター) 「分類クイズ」「図書おみくじ」で「分類名人」になろう
(学習・情報センター) 6つの思考ツールを身につけて「考える達人」になろう

「比較する」(ベン図) 「分類する」(X・Yチャート・KJ法)
「多面的に見る」(くま手図・お魚ボーン図・ボーン図)
「関連づける」(コンセプトマップ) 「構造化する」(なぜなに
シート・ピラミッドチャート) 「評価する」(PMI分析法)

- ①2学期に入る前の職員会で「思考ツール」の説明を行った。
 - ②配付資料と参考資料を職員室後ろの職員図書の棚に置いた。
 - ③思考ツールを印刷して図書館に置いた。
- (参考資料「思考ツール 実践編 関西大学初等部編 さくら社」)



3 係が、「授業でICTを円滑に活用するための基礎的なスキル等」の表の中で、「考えるための技法(順序づける、比較する、分類する等)」の指導の重要性を知る



「分かりやすい授業づくりのための教科指導におけるICT活用」
NITS(独立行政法人教職員機構)校内研修シリーズ
東京学芸大学准教授
高橋純先生の講義より

4 係が、高社中学校区小中接続委員会の中で「令和の日本型学校教育」というキーワードを知り、

「これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくこと」と

「9年間を見通した新時代の義務教育の在り方教育課程、指導体制等の重要性を知る。

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

- ◆ 全ての子どもたちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承していく
- ◆ 教職員定数、専門スタッフの拡充等の人的資源、ICT環境や学校施設の整備等の物的資源を十分に供給・支援することが国に求められる役割
- ◆ 学校だけでなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもたちの成長を支えていく
- ◆ 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせ生かしていく
- ◆ 教育政策のPDCAサイクルの着実な推進

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現のための改革の方向性

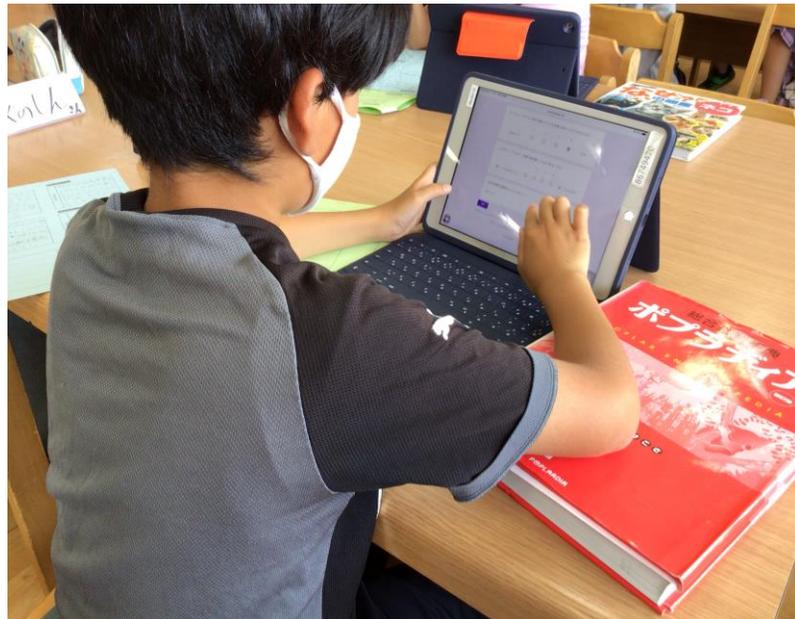
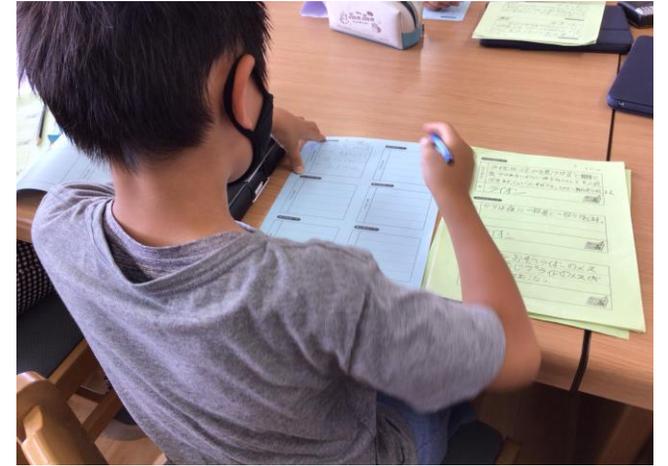
「令和の日本型教育」の構築を目指して ～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申） 令和3年1月26日 中央教育審議会

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)

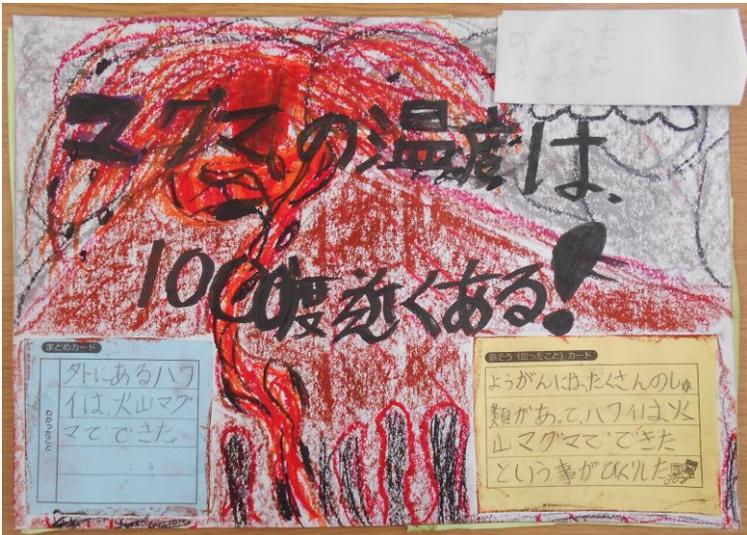
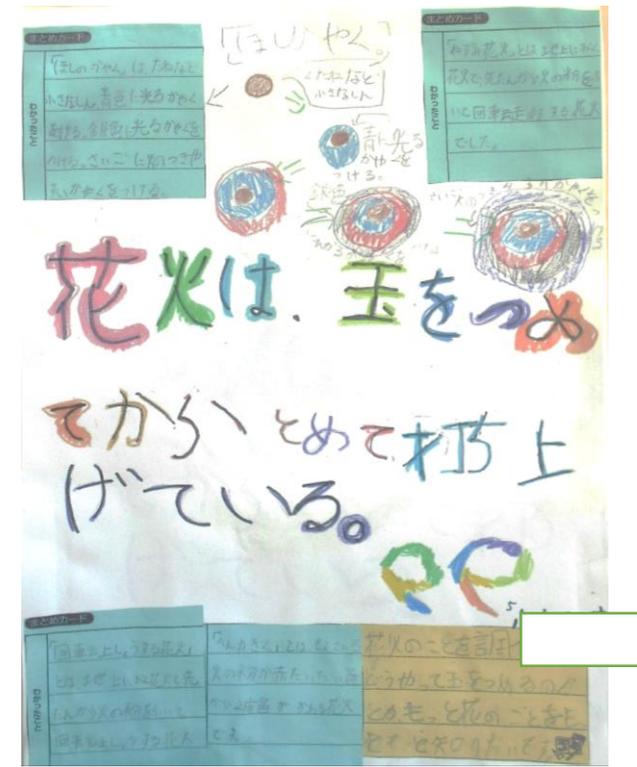
5 中野市・中野下高井図書館協会と 授業を見合うことで、読書活動について 知る

調べる学習にチャレンジ(4年生 国語 「要約しよう」とのコラボ)

4年生国語「要約しよう」と本を使った調べる学習を関連づけて行った。
参考資料「藤田式調べる学習指導法」(藤田利江著 子どもの未来社)
にあるCD-ROM資料をクラスルームから児童のタブレットに配付)



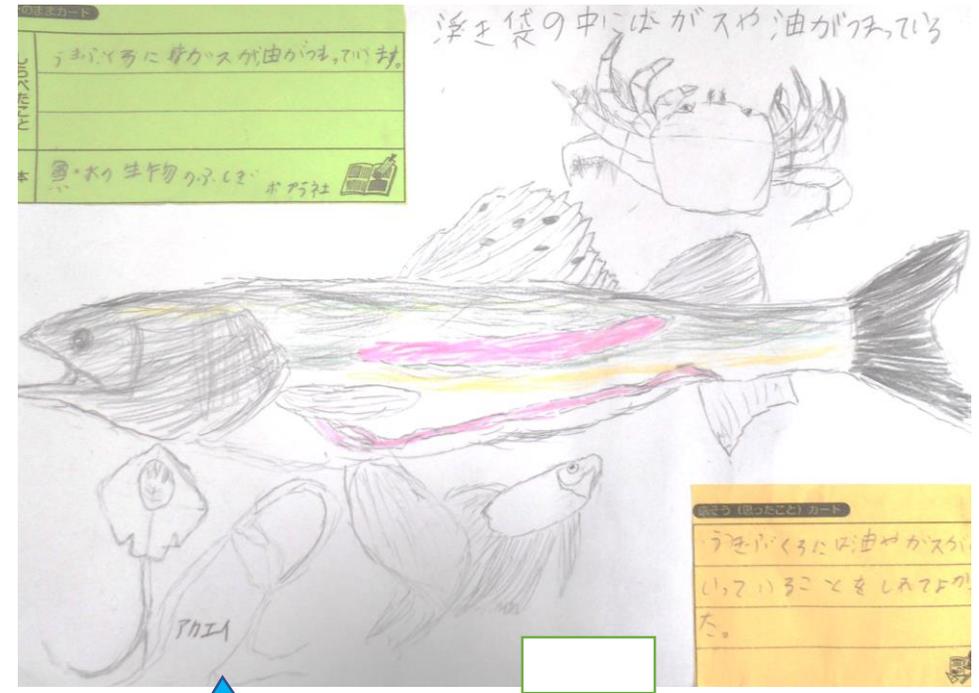
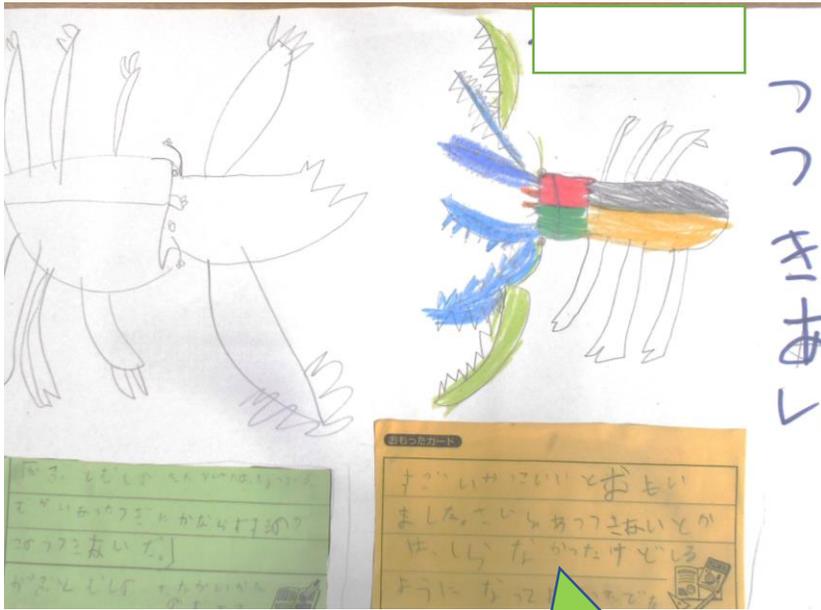
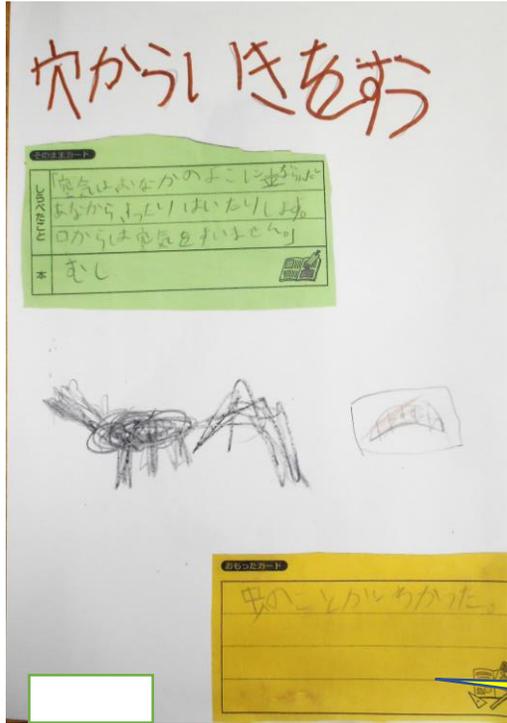
「調べる学習にチャレンジ」児童の作品と授業の振り返り②



よかったこと

- 1 「そのままカード」に記入することを喜んで行っていた。(休み時間に自主的に取り組む児童もいた。)
- 2 要約の仕方の3つの例を書いたプリントを配付した。児童は、3つの例を見てどのまとめ方がよいかを自分で選んでまとめることができた。「箇条書き」でまとめる児童が多かった。

「調べる学習にチャレンジ」児童の作品と授業の振り返り③



2年生の作品

3年生の作品

6年生の作品

課題・来年度に向けて

- 1 引用を学ぶ3年生で「そのままカード」を使った作品を作り、要約を学ぶ4年生で「まとめカード」も使った作品作りを行うと良い。
- 2 「まとめカード」を書く時に困ってしまう児童がいたので友達同士で相談する時間をとればよかった。
- 3 「そのままカード」や「まとめカード」を書く前に、①タブレットで下書きをして、②その下書きをお互いに見合う時間をとればよかった。

1 全職員で「Googleクラスルーム 研究推進」を活用して、実践を共有し合い、学び合う場を 創る

中村先生の授業。その③ 「太陽チャート」をもとに、本で調べて「そのままカード」を記入。それぞれのペースで友だちと話し合ったり、本を見つめたりして調べていきます。（本日はここまで...つづく）



IMG_0083.MOV
動画



IMG_0086.MOV
動画



IMG_0088.MOV
動画

中村先生の授業。その① 視覚による支援は特別支援が必要な子だけでなくどの子にも有効です。iPadにPDFでシートを送ると、きれいに見ることができます。今日は「どんなことを」「どんな手順で」「ここまでやるよ」ということが明確に示されました。また、欠席者があったのですが、欠席している子も後から見直せるのは大切です。



IMG_0080.MOV
動画

2 「中野・下高井図書館協会」のメンバーと、「Googleクラスルーム」という意見交流の場を 創る



中村仁志

6月19日

昨日、4年1組にて第1時の授業を行いました。

今日のねらい

- ・調べる学習にチャレンジ（3時間扱い）でやることを知り、学習の見通しをもつ
- ・iPadの資料を見て学び方について学ぶ
- ・「太陽チャート」を使って自分の調べたいことについて考える
- ・「そのままカード」にわかったことを記入する。（目標2枚）

- 1 公開授業の前時の様子を投稿。参観に来てくださった先生から、「事前に様子がわかってよかった。」とコメントをいただく。
- 2 当日参観してくださった先生が撮影して下さった写真を投稿していただく。
- 3 夏休み中に中野・下高井図書館協会主催で行った小谷田照代先生による学習会の様子を報告するつもりであったが、まだできていない。
- 4 今回の発表に向けてアンケートを実施。Formsで作成し、クラスルームに入っていていただくか、QRコードを読み取っていただいて回答していただく。

3 中野市生涯学習課と、おたよりに授業の様子を紹介していただくことで、子ども読書活動の理解を深めていくきっかけを 創る

「市内のおはなし会の情報」おはなしマップ 秋号(令和3年10月～12月号)より

◎高社小学校4年生の授業を見学して

市では、子どもの読書活動を推進する取組に関する相談に応じ支援することを目的として中野市読書活動推進コーディネーター堀内京子氏に、ご指導いただいております。

今回は、高社小学校4年生が行った「調べる学習にチャレンジ」の授業を見学しました。授業は、子どもたちが「調べたい」と思ったことを学校図書館や市立図書館の本を使って調べ、その内容を「そのままカード」に記入(引用)しました。さらにそのカードに書いた内容を要約して「まとめカード」に記入する内容でした。

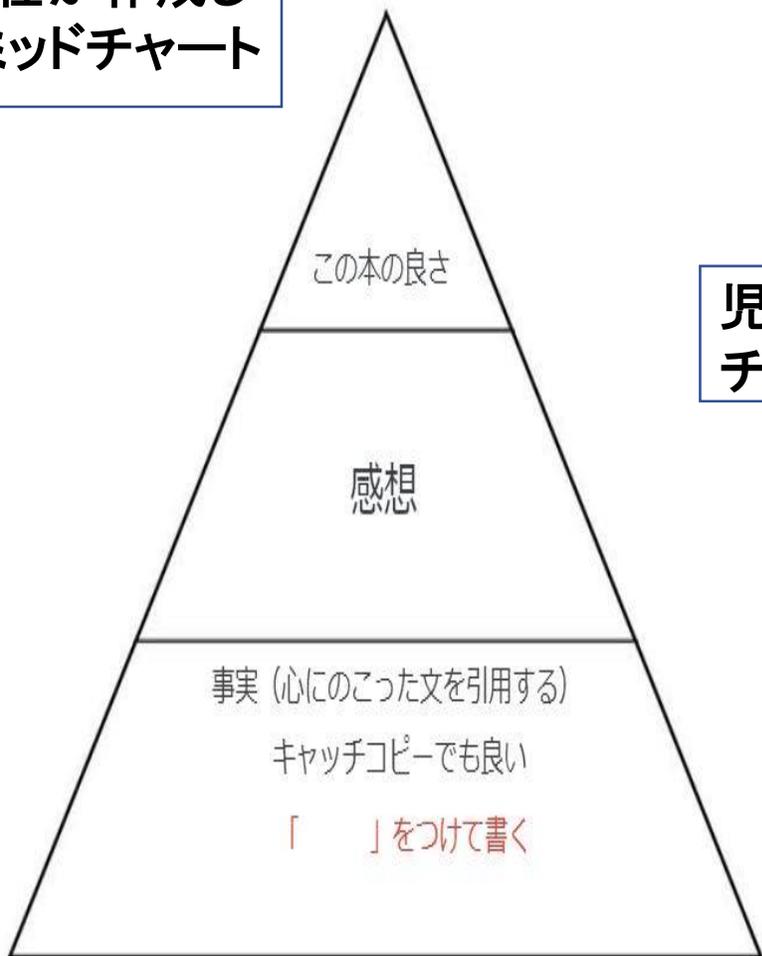
また、事前にiPadを使って「調べる学習にチャレンジ」の学習方法について、資料を子どもたちに配布してあり、その資料をじっくり見ながら、熱心に授業に取り組む姿があり、子どもたち1人ひとりの顔が、生き生きと輝いて見えました。

堀内コーディネーターからは、今後の授業をよりよい内容にするためのアドバイスをいただきました。



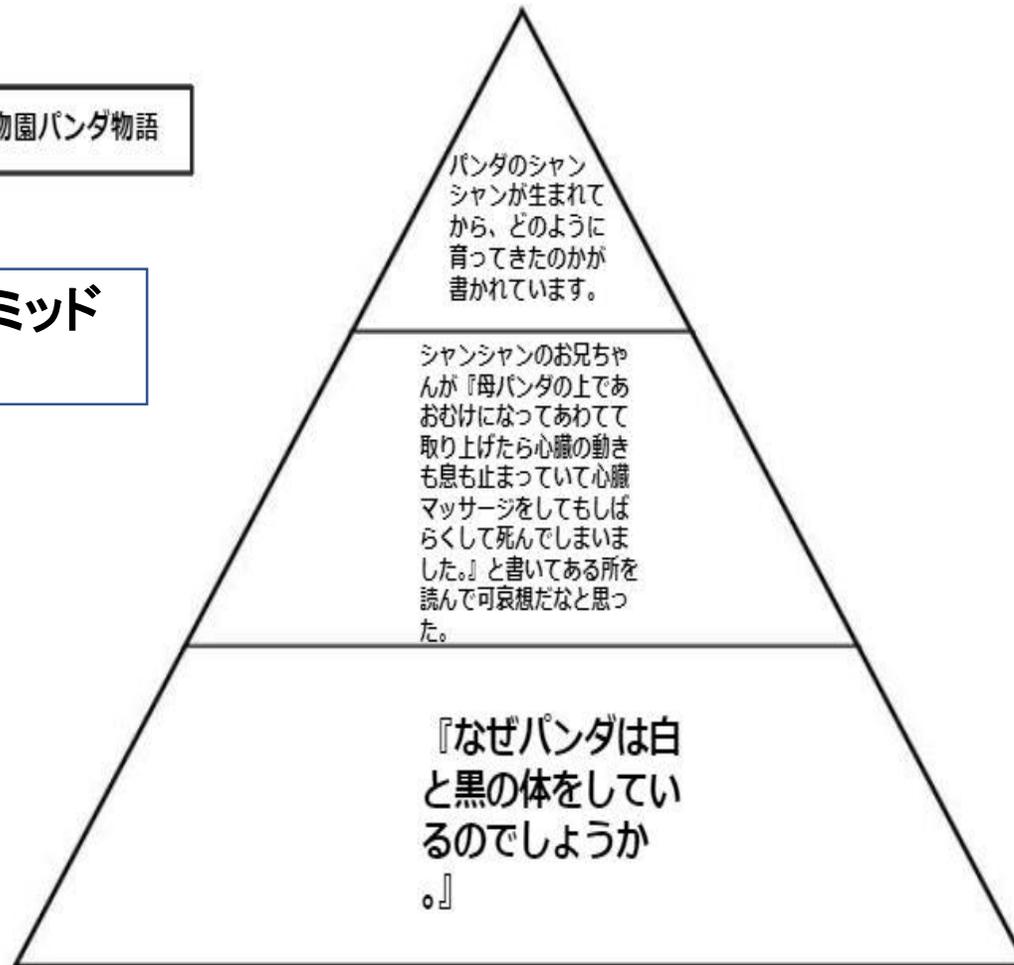
4 職員に「思考ツール」の活用を提案することで、「本の帯やポップを作ろう(4年生)」の授業において「思考ツール」を活用して自分の選んだ本の「よさ」を決めだし、帯やポップ作りに活かす授業を創る

学級担任が作成したピラミッドチャート

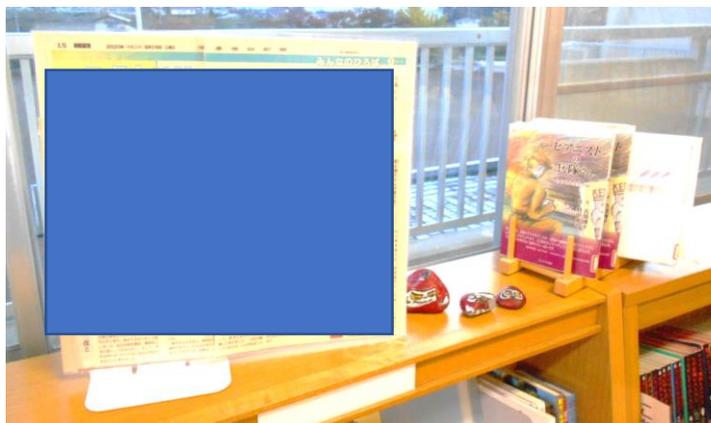
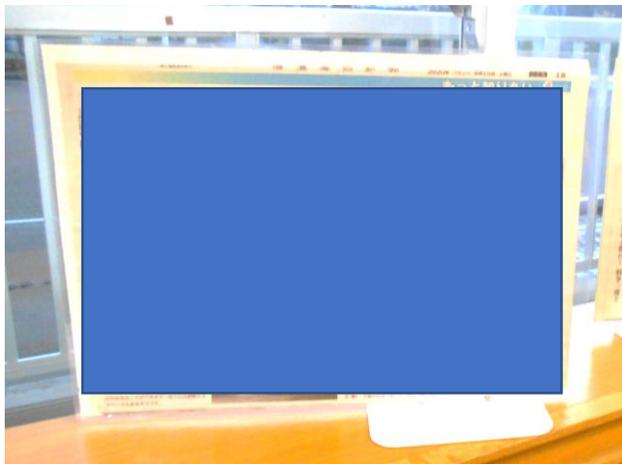


上野動物園パンダ物語

児童の書いたピラミッドチャート



5 地域の紹介が掲載された新聞記事や本を読んだり、地域の方の話を聞いたり、社会科の勉強で学んだりしたことをもとに平和についての自分の思いを創り、発信する。(昨年度の実践)



信濃毎日新聞(子ども新聞コーナー) 2020,8,15(土)

パスファインダー 「ピアニストの兵隊さん」と太平洋戦争

パスファインダーとは、あるテーマについて調べたいと思ったときに役に立つ本や資料の探し方につけてまとめたものです。

1 キーワードを決める

調べる学習をする時は、キーワードを決め出すことがポイントです。

「ピアニストの兵隊さん～ちりめん先生の記～」を読んだり、徳永さんのお話をお聞きして「どういうことかな」「もっと知りたいな」と思ったことはありませんか。書き出してみましょう。

例えば

忠霊塔、勤労奉仕、本土決戦、鬼畜米英、空襲、十三崖地下壕、疎開、青少年義勇軍、満蒙開拓、進駐軍 など

「ピアニストの兵隊さん～ちりめん先生の記～」 学習資料より

目次

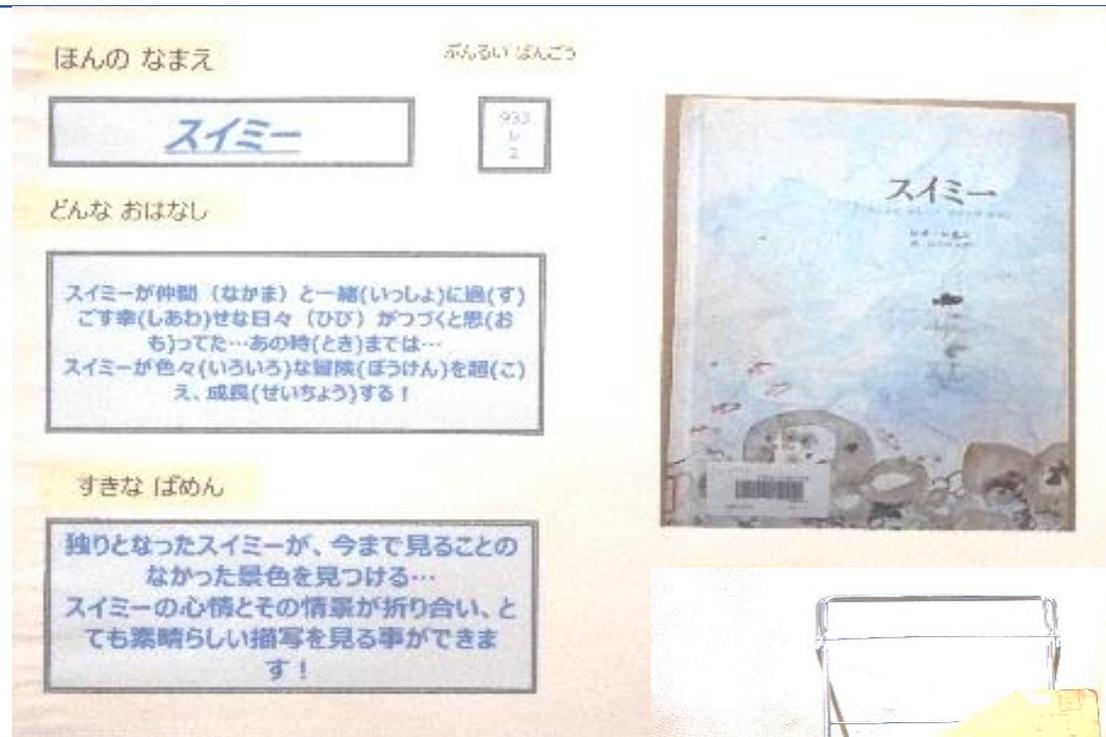
1	本の紹介と新聞報道等	— 3 —
2	絢子先生と教え子の方々	— 13 —
3	忠霊塔・奉安殿	— 14 —
4	ホップ摘み	— 18 —
5	焚き木運び	— 19 —
6	十三崖	— 20 —
7	戦時体制・戦後	— 30 —
8	満蒙開拓青少年義勇軍（高社郷）	— 37 —
9	ピアノ	— 39 —
10	進駐軍の兵士	— 40 —
11	旧四ヶ郷駅跡（長野電鉄木島線）	— 42 —
12	平和を（永井隆博士）	— 43 —
13	教材化（令和2年度高社小学校の実践）	— 49 —
14	教材化（穂高西中 曾山正子教諭の実践）	— 64 —
15	平和のつどい 資料	— 68 —
16	参考文献	— 76 —



図書委員会の取り組み①「おすすめ本ポスター」を作ろう

昨年度の実践

- ねらい おすすめ本のポスターを作り、校内に掲示することで、読書への関心をもってもらおう。
- 方法
 - ①おすすめの本を選ぶ。
 - ②本のあらすじと自分の好きな場面の紹介文を書く。(タブレット使用)



図書委員会の取り組み②「自分のお気に入りの本のしおり」を作ろう

昨年度からの実践

多くの方の「大切な一冊に対する思い」を集めてしおりを作り、様々な図書館に配付する活動を10年近く行っているkumori（渡辺ゆきのさん 仙台在住）とリモートでつながり、しおり作りを行った。しおり作りのためのワークシートも作っていただき、メールで送っていただいた。しおりは、6年生には卒業前に完成し送っていただき、引継ぎ児童会の時に渡した。しおりの贈呈式はリモートで行い、渡辺さんに見ていただき、声もかけていただいた。



6 本への熱い願いを持つ方と繋がり、本の内容を自分の言葉で要約し、自分が伝えたいことを自分の言葉で表現したしおり作りをすることで、本がさらに好きになる気持ちを創る(図書委員会)

kumori は本と人をつなげるしおり。
本の紹介を送ると、しおりとなり、様々な図書館で配られます。
あなたの大切な本も、kumori にのせてみませんか？

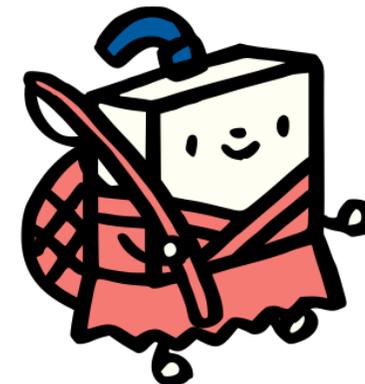
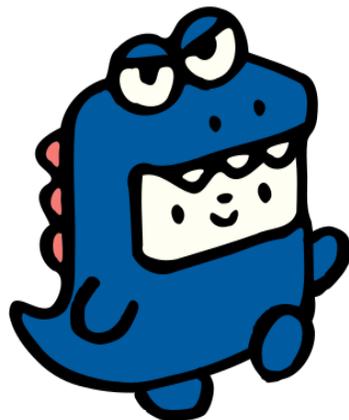
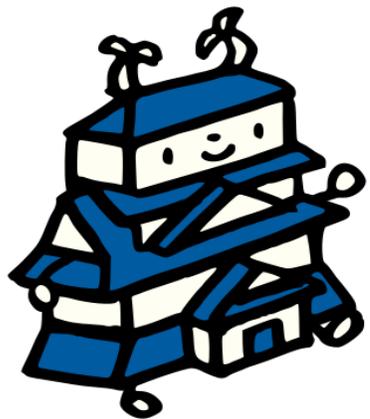


kumori 本と人をつな
げるしおり(くわしくは→)

<https://kumori.info/>



7 図書委員がタブレットで撮影した写真とkumori(渡辺ゆきののさん)作成の
ブンルイブックスのキャラクターのコラボ企画によるしおりを全児童に配付する
ことで、分類に対しての興味関心を高め、読書の幅を広げるきっかけを 創る



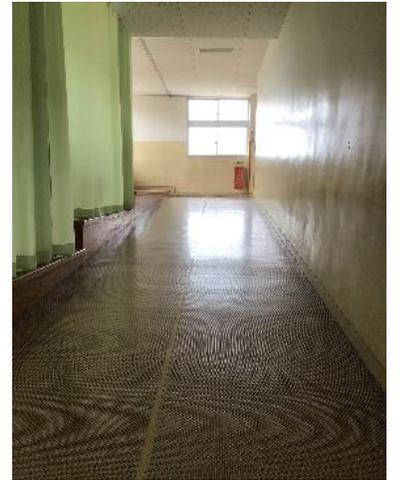
ブンルイブックス くわしくはこちら ⇒

<https://kumori.info/bunruibooks/>

オンラインで開催中の図書館総合展(11/1~11/30)にもkumoriが参加されています。
KumoriのページのQRコードは、こちら→

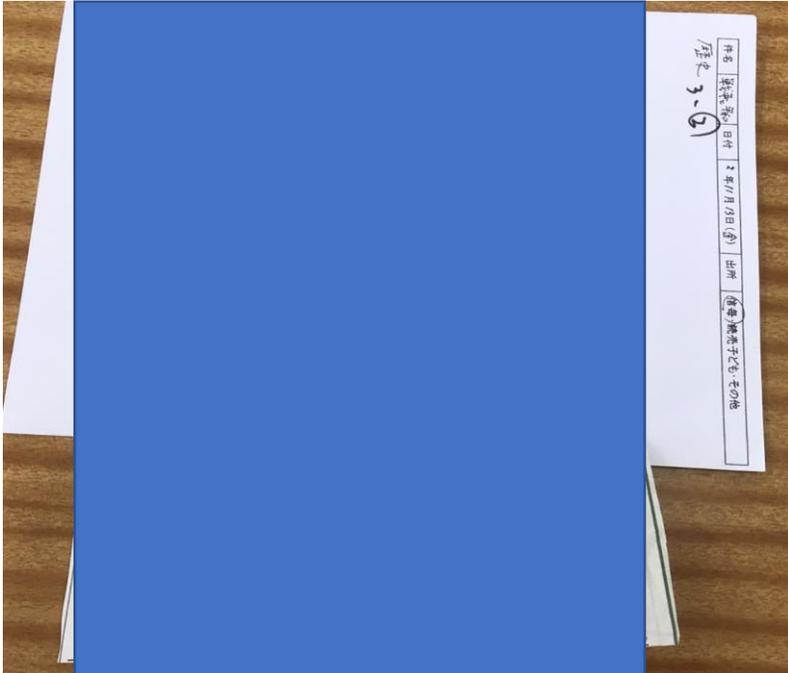


図書館総合展の kumori のページURL (<https://2020.libraryfair.jp/poster/2021/1>)





8 朝の読書の時間に、友達と一緒に情報ファイル(新聞の切り抜き)を読み、感想や疑問に思ったことなどの意見交流をして、新聞記事を撮影してタブレットに保存し、自分の感想や考えをタブレットに書き込み、自分の考えを 創る

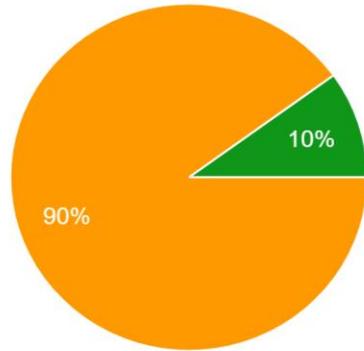


満蒙開拓について高校生が紙芝居を作っていて、当時満蒙開拓団に入っていた人が「当時のことを多くの人に知ってもらえてうれしい」と紙芝居を聞いた後に話していたと書いてあるから、自分も大きなところでは伝えることはできないかもしれないけど家族や親戚に話したいと思った。(児童の感想より)

8 「地域と共に知り、共に創る」のテーマについて、中野・下高井地域にて共に図書館教育に携わっておられる図書館主任、学校司書の方々のご意見をお聞きすることで、図書館教育の新たな一歩を創る

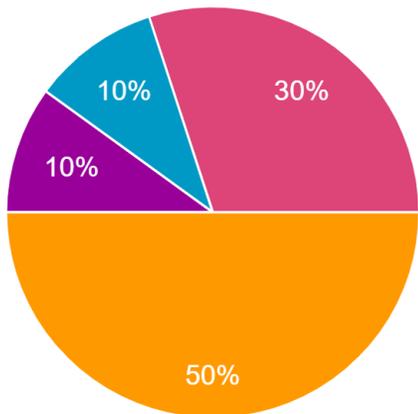
お立場を教えてください。（複数回答可）

10件の回答



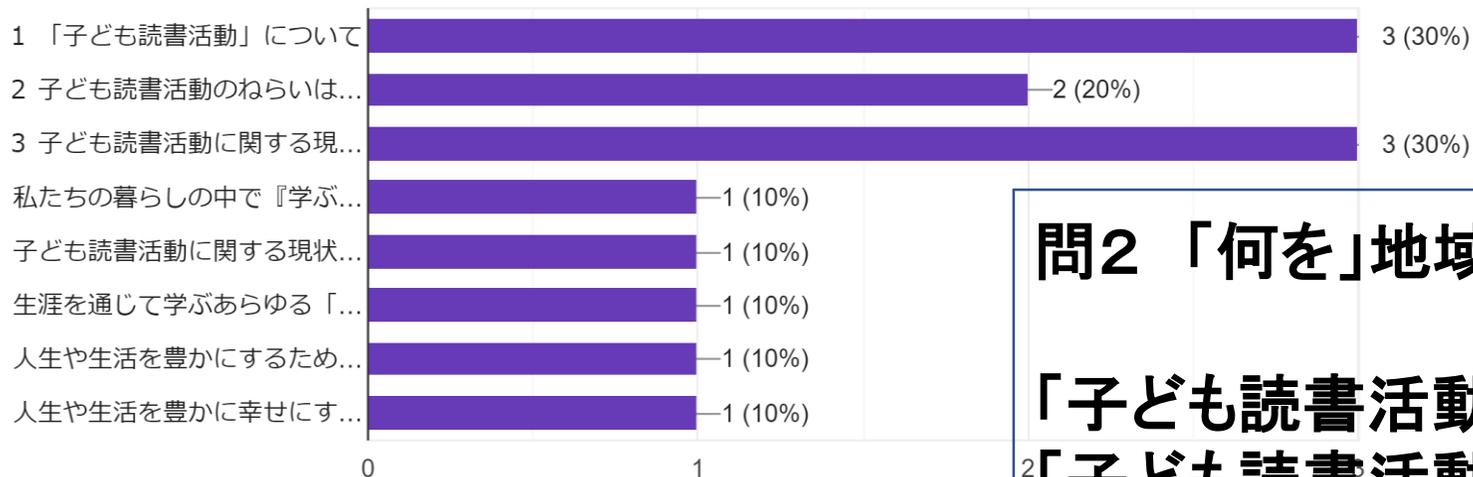
- 司書教諭
- 図書館教育主任
- 図書館司書
- 図書館事務

10名に回答していただく。（全て学校司書の皆さん）



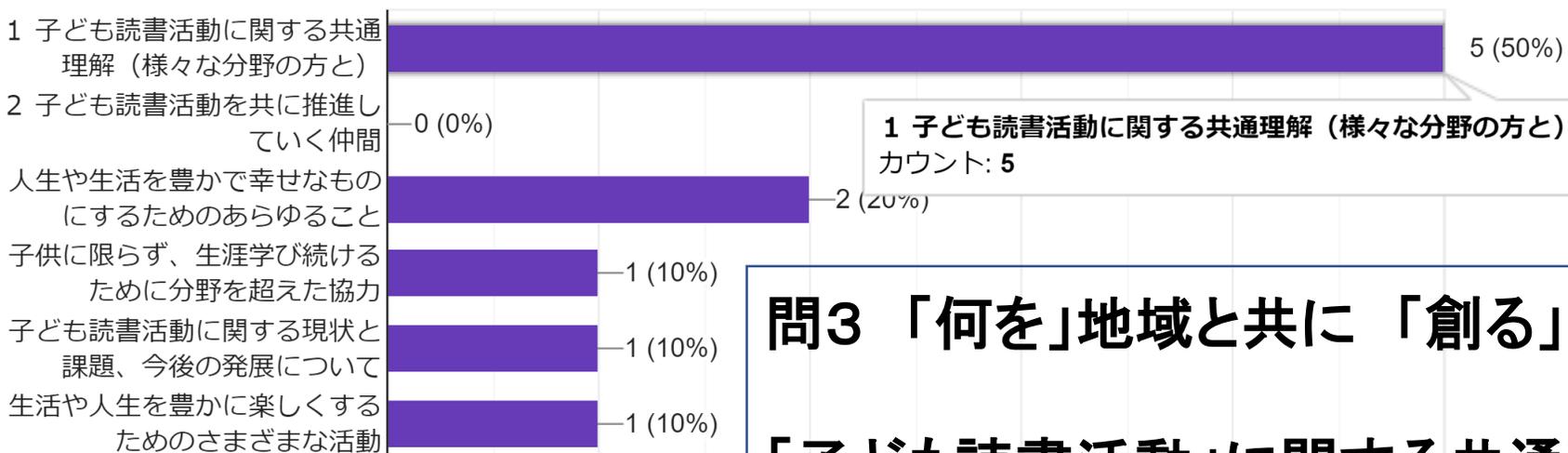
- 1 自分の職場
- 2 自分の職場に住む方々
- 3 自分の居住しているところ
- 4 自分の家族が居住しているところ
- 5 中野・下高井地域
- 6 北信地域
- 7 長野県

「地域」とは誰か？
一番多いのは「自分の居住しているところ」



問2 「何を」地域と共に「知る」のか？

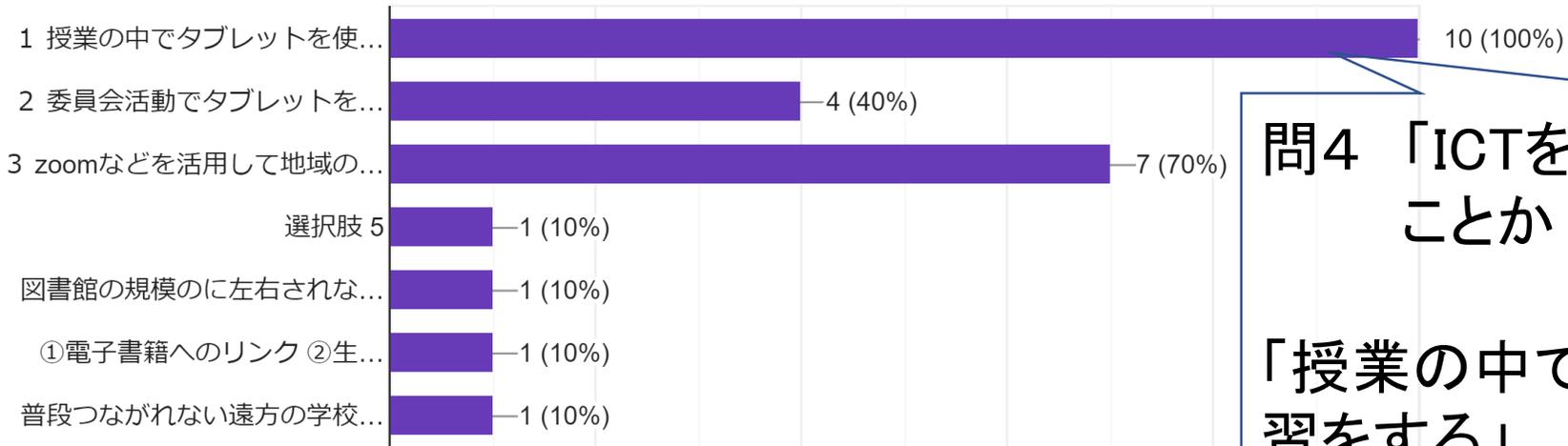
「子ども読書活動」についてと
2「子ども読書活動」に関する現状
を「知る」という回答が多かった。



1 子ども読書活動に関する共通理解（様々な分野の方と）
カウント: 5

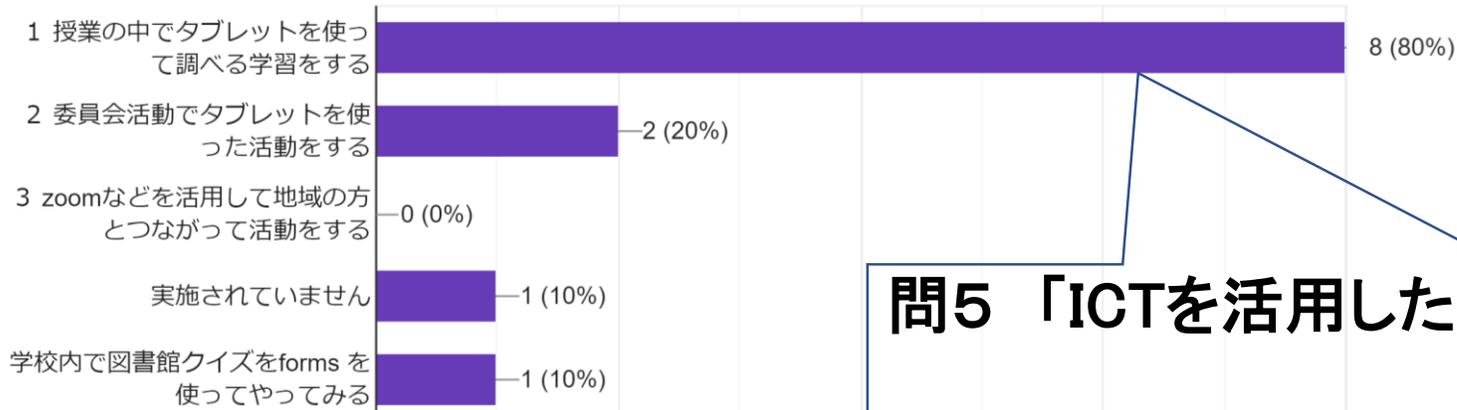
問3 「何を」地域と共に「創る」のか？

「子ども読書活動」に関する共通理解（様々な分野の方と）
が最も多かった。



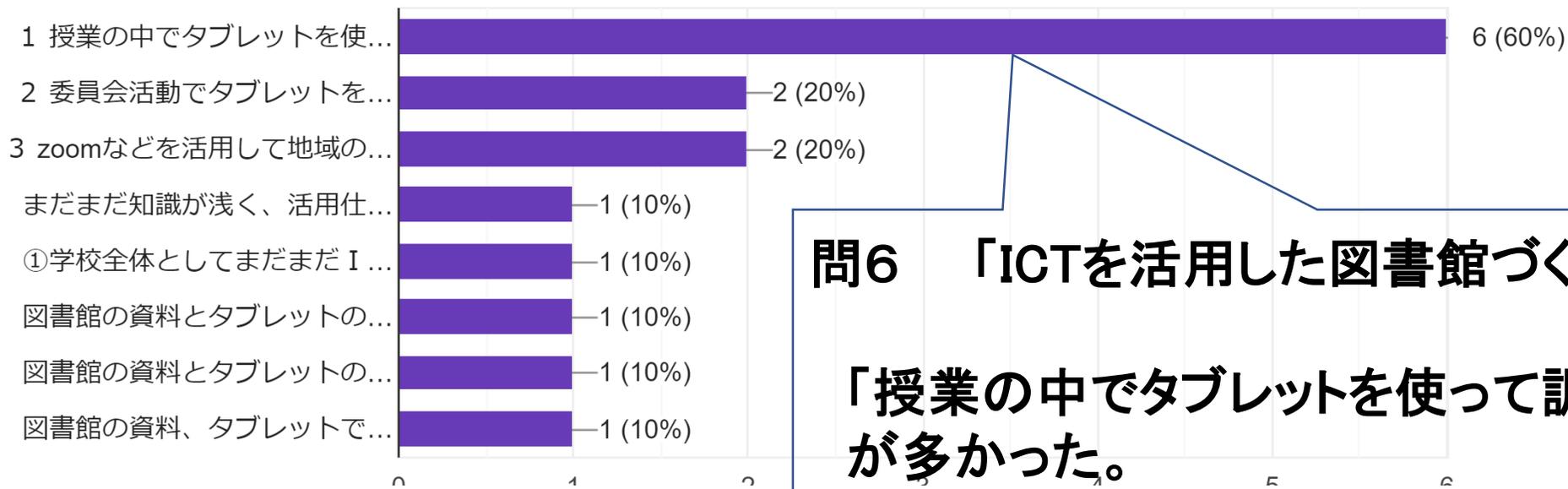
問4 「ICTを活用する」とは、どのようなことか？

「授業の中でタブレットを使って調べる学習をする」
 「zoomなどを使って地域の方と繋がって活動する」が多かった。



問5 「ICTを活用した図書館づくり」で行っていることは、

「授業の中でタブレットを使って調べる学習をする」
 が多かった。



問6 「ICTを活用した図書館づくり」の課題は

「授業の中でタブレットを使って調べる学習をする」が多かった。

自由記述

- 図書館司書教諭と図書館司書と担任の先生方との連携がうまく取れていることが大切だと思う。また、市立図書館との連携も大切、学校のトップである、校長・教頭先生の理解も大切だと思う、担任によって図書館や読書に対する意識の違いが子供達の読書量や読む本に現れており、担任の読書への考え方がとても大切だと思う、
- 言葉の力をつけるために読書は必要。本に親しむ子どもを育てたい。そのために学校図書館で楽しい読書体験をあげたい。

自由記述

- ・学校図書館と公共図書館の連携が出来ていない。使いやすい仕組み作りをお願いします。
- ・学校図書館は先生方と繋がらないと機能としては不十分なので教育の中に図書館を入れてもらう事が先ずは大事になるのではないのでしょうか。図書館だけで頑張っても限界があるので、学校全体のこととして考えて欲しいです。
- ・図書館でタブレットと図書両方を活用した授業が全く行われていない。学校の先生方はどのようにお考えなのか知りたい。
- ・使える図書館にするために資料の充実は勿論ですが、パスファインダー等手間をかけた学校独自の資料作りをしたりして、司書教諭、教科担任と学校司書が連携できるように働きかけること、受け身ではなく学校司書が能動的に行動を起こす事が大事だと思いながら仕事をしています。

(1) 中野市教育大綱

「ひと・もの・ことと関わりながら、学び合い、支え合い、未来を切り拓くたくましい子ども」

○「信州なかの」ふるさと学習の推進

○地域が支え地域に学ぶ生涯学習の推進

○時代に対応した魅力ある学校教育の推進

○夢を持ち、未来にはばたくキャリア教育の推進

○豊かな心、健やかな体、確かな学力を向上させるため、安心して学べる教育環境の充実

(2) 教育大綱の5つの柱と施策

2 地域が支え地域に学ぶ生涯学習の推進

③図書館や博物館の利用が生涯学習の推進につながるよう、豊富な資料の充実とサービスを図ります。

④子どもたちが本に親しみ、豊かな心を育むよう、子ども読書活動を推進します。

3 時代に対応した魅力ある学校教育の推進

④学校内のネットワーク環境を整備すると共に、児童生徒がタブレット端末等を活用したICT教育(デジタル機器やコンピュータ、インターネットなどを活用した教育)を通じて、新しい時代に生きる力を身につける教育を充実します。

資料4 新学習指導要領における「読書活動」「学校図書館」に関連する主な記述について

(https://www.mext.go.jp/a__menu/shotou/dokusho/meeting/08030612/002.htm)

小学校学習指導要領

第1章 総則

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2 (10)学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

第2章 各教科

第1節 国語

第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱

1 (3)第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

(6)第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

中学校学習指導要領

第1章 総則

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2 (11) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

第2章 各教科

第1節 国語

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 (2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について相互に密接な関連を図り、効果的に指導すること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、生徒が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、様々な文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすること。

「何を」共に知る？

1 「子ども読書活動」とは何か

2 「子ども読書活動」のねらいは何か

3 子どもたちの「読書活動」に関する現状

「何を」共に知る？

1 「子ども読書活動」とは何か

(基本理念) 第2条 「子どもの読書活動の推進に関する法律」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm)

子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

「何を」共に知る？

2 「子ども読書活動」のねらいは何か

(目的) 第1条 「子どもの読書活動の推進に関する法律」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/001.htm)

この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

「何を」共に知る？

3 子どもたちの「読書活動」に関する現状

「子ども読書活動推進計画達成に向けた目標について」が毎年行われているが、「調査のための調査」になっていて、現状が反映されていない。今の「ありのまま」の様子を伝え合うことで、子どもたちの「読書活動」の現状を共有したい。そのためには、「子ども読書活動」についての正しい理解が必要不可欠である。

① 「子ども読書活動」について、「地域（学校内、学校と地域等）と共に知る」こと。

② ICTを活用した「読書活動」は、思考ツールの活用との関連が重要である。どんな学習活動の時に、どの思考ツールを活用したかを記録に残して蓄積していくことで共有していくことが重要である。

「何を」共に創る？

1 「子ども読書活動」に関する共通理解 (様々な分野の方と)

中野市では、「子ども読書活動推進のための活動目標」が年度初めのアンケート調査(各校の昨年度の反省)をもとに決定されている。アンケートの質問項目は、「読書指導」に関わっての項目が多く、「調べる学習」に関しては、「学校図書を利用した学習活動の充実」の1項目しかない。「子ども読書活動」に関する共通理解の必要性を強く感じる。

「子ども読書活動」を様々な分野の方と共通理解し、その上で現場の図書館教育の現状を共通理解していきたい。

「何を」共に創る？

2 「子ども読書活動」を共に考え推進していく仲間

- 1 中野・下高井地域の司書教諭・図書館主任が集まって現状を伝え合ったり、悩みを共有する機会がほしい。
- 2 「子ども読書活動」に関わって様々な分野の方と共に研修する機会がほしい。(zoom等を活用して)
- 3 各校での実践を共有する場がほしい。

終わりに

ひとりからひとりへ

～子ども読書年によせて～松岡享子さん(2000年2月15日 「読書推進運動」No.387より)

「・・・子どものそばにいるだれかが、ひとりからひとりへの形で、子どもと本をつなぐこと、子どもと読書のたのしさと大切さをわかちあうこと、それ以外に読書を子どもの心に根づかせる手だてはないと思う。」





本に関する思い出話 (職員と)



「うちどくの日」に紹介した本を理科
室前の掲示板にて紹介していく

理科専科の先生とのコラボ掲示





ご清聴ありがとうございました。

